

# 平成23年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校

学校長 向田和義

## 1 教育目標

- (1) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。
- (2) モラルを重んじ、各自が責任感をもって人を思いやる心豊かな人間を育成する。
- (3) 健康や体力の増進に努め、逞しく活力ある人間を育成する。
- (4) ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献できる人間を育成する。

## 2 中・長期的目標

### (1) 学校の現状

- ① 本県基幹産業を担う人材育成を目的とする能登地区唯一の工業科単独高校として、もの作りを中心とした専門教育を行い、就職希望者のほとんどは、専門を生かした仕事に就いている。今後の経済状況の変化に伴う就職戦線の激化が予想され、今まで以上に社会が必要としている人材の育成が必要となってくる。
- ② 資格取得を奨励し、高度な資格に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者も増加している。部活動も大変盛んであり、資格取得のための放課後や休業中の補習と部活動の両立が課題である。
- ③ 部活動を推進し、95%を超える部加入率、80%を超える運動部加入率を維持し、健全な心身の育成をはかり、成果を上げている。

### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 基礎・基本の徹底と確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
- ② 時代を展望し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
- ③ 健康や体力の増進に努め、人間性を育み、心身ともに健康で逞しい人づくりをする。
- ④ 産業社会の変化に対応できる社会人としての総合的な能力を高め、問題解決能力・創造性に富む人づくりをする。

### (3) 教職員、学校組織などの望ましいあり方

- ① 教職員の意識改革を図り、一人ひとりが学校経営に参画する意識を持ち、全職員が協力して、学校運営に組織的に取り組む。
- ② 自己評価や外部評価を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、指導力の向上や授業改善に努める。
- ③ 産業構造の変化や技術革新に対応できるよう産業界の動向を常に把握するとともに、本校に適した指導内容・教育課程・教育システムを模索し、地域に必要とされる「ものづくり教育」をめざす。
- ④ 工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校作りを推し進める。

## 3 今年度の重点目標

- (1) 学力向上を図り、資格取得を奨励するとともに企業が求める能力を育成し、生徒の進路志望を実現させる。
- (2) 部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健康で逞しい人づくりをめざす。
- (3) 奉仕活動等を通じて地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 学力向上を図り、資格取得を奨励するとともに企業が求める能力を育成し、生徒の進路志望を実現させる。	① 研究授業の事前・事後の教科研修会や研究協議会、互観授業を充実させ、各教科と学科を核にして学校全体で授業改善に取り組む。	教務課 各教科	教科研修会や研究協議会を実施しているが、その結果を踏まえた授業改善への取組回数が少ない。指導力・技術力の向上を目指してさらに意識を高める必要がある。	【努力指標】 研究授業や互観授業で得られた授業改善の方策を各教科と学科を中心に実践し、指導力・技術力の向上を図った。	各教科と学科で授業改善についての取組を行った A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組む事ができなかった	A・B合わせて70%以下の場合は取組を再検討	教職員対象に7月・12月にアンケート調査
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポートの内容・出題を工夫するとともに資格取得も関連付けて学習習慣を身に付けさせる。	教務課 各教科	学習への姿勢が二極化する傾向が見られ、家庭学習が少ない生徒が多い。また、課題・レポート等にはしっかり取り組むが、自発的・継続的な学習に至っていない。	【満足度指標】 授業以外での学習に十分取り組むことができた。	課題・レポート・資格取得など授業外の学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて75%以下の場合は取組を再検討	生徒対象に7月・12月にアンケート調査
	③ 定期考査1週間前より、部活動での学習会や勉強会、個別面談・個別指導等を実施させ、学習意欲の向上と時間確保を図る。	部顧問 生徒会	部活動で学習会等に取り組むことは定着してきた。勉強時間は確保できているが、学習効果については検討すべきである。	【満足度指標】 各部署で、学習会、勉強会、個別面談、個別指導を行い学習効果が上がった。	部学習会や個別面談等により、学習効果が上がったと感じる生徒が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	Dの場合は、取組を再検討	各部署対象に7月・12月に調査
	④ 図書室の利用を促し、調べ学習や読書習慣を身に付けさせる。	図書課	2学期末までの図書室延べ利用者数は過去2年の平均で約3,400人であった。1日平均利用者数は20人に満たないのでさらに利用者を増加させたい。	【成果指標】 図書室を利用する生徒が増加した。	2学期末での図書室の延べ利用者数が A4,000人以上 (1学期末1,500人以上) B3,500人～3,999人 (1学期末1,400人～) C3,200人～3,499人 (1学期末1,200人～) D3,200人未満 (1学期末1,200人未満)	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・12月に調査
	⑤ 希望進路の実現に対する資格取得の説明機会を増やすとともに、課外補習を充実させ資格試験の合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格取得に対する生徒の意識は高まってきてはいるものの、生徒一人当たりの資格取得数は昨年度2学期末で平均1.6程度であり、まだ十分とはいえない。	【成果指標】 各自が必ず合格したい資格を複数定め、意欲的に資格取得に取り組み、資格試験合格者数が増加した。	2学期末での資格試験延べ合格者数が学校全体で A 720人以上 B 540人以上 720人未満 C 360人以上 540人未満 D 360人未満	C・Dの場合は、問題点・具体策を検討	2学期末の資格試験受験結果集計による
	⑥ 高度な資格の内容紹介や受験指導を行うとともに、ジュニアマイスターの点数区分を明示し、多くの資格に挑戦する意識付けを行う。	工業科 関連教科	昨年度のジュニアマイスター認定者は35人と過去10年間で最高であった。さらに認定者の増加に取り組みたい。引き続き学科・コースにとらわれない資格を受験する生徒を増加させることが課題である。	【成果指標】 専門的な知識・技術を十分につけたことの総合指標となるジュニアマイスター顕彰の認定者数が増加する。	全校のジュニアマイスター認定者数が A 30人以上 B 25人～29人 C 20人～24人 D 19人以下	C・Dの場合は、取組を再検討	7月、2月の資格試験受験結果集計による
	⑦ 進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行い、また、インターンシップを通して適切な進路選択を促進させる。	進路指導課 工業科 学年	地域企業について理解したり、仕事の意義を理解させるとともに、進路情報を的確に知らせ、意識を高める必要があるが、低学年ほど十分とはいえない。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識が高揚した。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	Dの場合は、取組を再検討	生徒対象に7月、12月にアンケート調査
	⑧ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 ・基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 ・外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	進路指導課 工業科 学年	昨年は、地元製造業の求人数が若干増加したが、全体数では減少している。今年は東日本の震災で求人状況が厳しいと推測される。進学も含め基礎学力やコミュニケーション能力を高め、実力をつける必要がある。	【満足度指標】 適切な学力・面接等の指導により実力をつける。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	Dの場合は、指導方法を再検討	3年生を対象に12月にアンケート調査
【成果指標】 就職内定率を高める。				民間就職試験の第1回目試験での内定率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	Dの場合は、指導方法等を再検討	3年生を対象に秋に調査	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会でベスト8以上、高体連表彰取賞獲得を目指す。	生徒会課 運動部顧問	昨年度ベスト8以上は県高校総体7部、新人大会8部であった。(12クラス以下の学校では県高校総体2位)	【成果指標】 男女合わせて18ある運動部で、5割以上がベスト8以上の成績をあげる。	ベスト8以上の運動部が A 50%以上(9部以上) B 40%以上50%未満(7~8部) C 30%以上40%未満(6部) D 30%未満(5部)	C・Dの場合は、取組を再検討	県総体、県新人大会の成績結果による
	② 文化部において、部の重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開の機会をさらに増加させる。	生徒会課 文化部顧問	各文化部が学校祭以外で発表・展示・公開の機会を持った昨年度回数は平均4.2回である。活性化のためさらに発表機会を増加させていきたい。	【努力指標】 校内外での文化部活動を活性化し、発表・展示・公開の機会を増加させる。	学校祭以外で発表、展示、公開練習等の機会を持った回数 A 7回以上 B 5~6回 C 3~4回 D 2回以下	A・B合わせて50%以下の場合には再検討	各文化部対象に7月・12月に調査
	③ 生徒会が中心となり、行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事において、生徒が積極的に参加するために、新しい試みや工夫・検討が一層必要である。昨年度は86%の生徒が満足した。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満足のいく行事になっている。	生徒会行事に満足していますか A たいへん満足した B おおむね満足した C あまり満足できなかった D まったく満足できなかった	A・B合わせて80%以下の場合には再検討	生徒対象に7月・12月にアンケート調査
	④ 精神的な悩みを持つ生徒に対して、学年、課が連携し組織的に支援する。	教育相談課 保健指導課 学年	不登校及び、教室での学習が困難となった相談室・保健室利用者が数名いる。	【努力指標】 支援を必要とする生徒に対して職員が情報交換を密にし、組織として対応する。	精神的な悩みを持つ生徒に対する職員の支援が A よく行われている B おおむね行われている C あまり行われていない D まったく行われていない	A・B合わせて80%以下の場合には、支援体制を再検討	教員対象に7月・12月にアンケート調査
3 奉仕活動等を通じて地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、1日1善運動を校外にも推奨する。	生徒会課 学年	海岸清掃や地域イベント等に参加しているが、社会貢献活動の大切さが十分理解できているとはいえない。	【満足度指標】 社会貢献活動の大切さを理解し、クラス、部活動、生徒個々で1日1善を校内外で実践している。	1日1善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	A・B合わせて60%以下の場合には再検討	生徒対象に7月・12月にアンケート調査
	② 社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を説き、認識させる指針により、マナーと交通ルールを遵守する生徒を育てる。	生徒指導課 学年	ほとんどの生徒が通学時に自転車を使用しており、乗車マナーについて集会や朝礼時に注意しているが、徹底されず苦情の連絡が入ることもある。	【満足度指標】 交通ルールを遵守した自転車通乗車で、安全に通学している。	自分自身の自転車乗車ルール(規則)について A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	A・B合わせて70%以下の場合には、全校的な意識の高揚と指導法の再検討	生徒対象に7月・12月にアンケート調査
	③ Webページの更新を定期的に行って学校の活動状況を発信し、情報公開に努める。	情報管理課 総務課 工業科	Webページの更新回数が少ない状況にあり、情報発信手段としての活用が十分に行われていない。	【努力指標】 活動状況のタイムリーな情報提供を行う。	ホームページを更新した回数 A 20回以上 B 15回以上20回未満 C 10回以上15回未満 D 10回未満	C・Dの場合は、取組を再検討	各担当・各部対象に7月・12月に調査
	④ 環境保全についてはこれまでの取組を萎えさせることなく職員・生徒が理解を一層深め、特にゴミの分別等が正しくおこなわれているか評価することを試みる。	総務課 保健指導課 学年	環境保全活動は年々着実に行われているが、その取組に個人差があり、全校一致した取組となっていない。一人でも多くの生徒が活動に参加できるようにしたい。	【成果指標】 各学期1週間程度各教室のゴミの分別を中心に1日20点満点で評価する。	15点以上の教室が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	ISO委員により6月、10月、2月に各教室を1週間調査し1日20点満点で評価する。